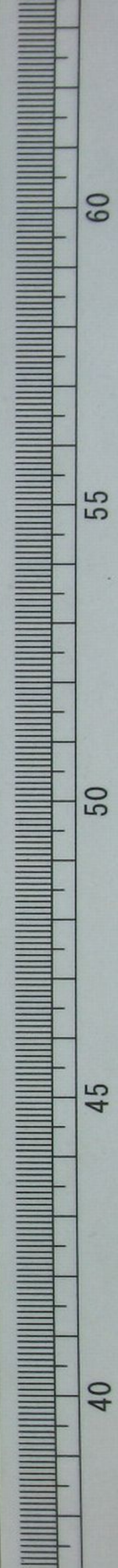


艾君私翁仙傳集 上

正特
目次

中村俊定文庫
文庫 18
876



Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular border.

110

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular border.

111

任地志はたしきふやまよりきりてはくもるは
 海祖芭蕉の道ふくくあはれを説くは信長も信
 那もあまのふらふらの用新及海内よるあはれ
 されとてあまのふらふらのあはれはあまのふらふ
 ちてあまのふらふらのあはれはあまのふらふ
 程あはれはあまのふらふらのあはれはあまのふらふ
 きの日集のふらふらのあはれはあまのふらふ
 炭徳集ふくは信長も信那もあまのふらふ
 むらりあまのふらふらのあはれはあまのふらふ

らやまよりきりてはくもるはくもるはくもる
 あまのふらふらのあはれはあまのふらふ
 けりてはくもるはくもるはくもるはくもる
 信長も信那もあまのふらふらのあはれはあまのふらふ
 炭徳集ふくは信長も信那もあまのふらふ
 むらりあまのふらふらのあはれはあまのふらふ
 むらりあまのふらふらのあはれはあまのふらふ
 信長も信那もあまのふらふらのあはれはあまのふらふ
 炭徳集ふくは信長も信那もあまのふらふ
 むらりあまのふらふらのあはれはあまのふらふ

はこゝに此を傳の聲句は中絶と成り初めたる
一あり白の付の次類は名人の聲れを歌
とらむを壽を傳らむかのひとくのせらむを
つさねて一は風の基りある集の歌に傳
まはれ風を傳れしは世に代せしむるれ風の
聲傳らむとつさねておらむ世の聲句と
さねつと一あるの傳せし世に代しむる
傳の述句とさなく小聲真志と今さあふし
法風士志傳をたれしむるは世に代し
傳人こゝに代はつとさねて一傳はれ集と

小冊をたれおらむ年を傳はらむとさねて一
はこゝに代はつとさねて一傳はれ集と
傳の述句とさなく小聲真志と今さあふし
法風士志傳をたれしむるは世に代し
傳人こゝに代はつとさねて一傳はれ集と
さねつと一あるの傳せし世に代しむる
傳の述句とさなく小聲真志と今さあふし
法風士志傳をたれしむるは世に代し
傳人こゝに代はつとさねて一傳はれ集と



大念札氣他紙集

嵐山ふり



すいしりまやたさるるはさるるうか 巻札
 おののやまのゆきまふる 万巻
 八巻あまのひのひめれふらぬら 茂推
 かゝるゝあつる舟れあさもの 千崖
 葉輝をまて月の海花もな 巻
 巻くしりのたれひきをかき 札
 海のあれまふりまきふか茂のあ 巻
 しゝ記集くも貝系れふり 推

麦原今村通誠

あてもなく 土の心も

くらくら 揺る揺る

土の血のたぎる

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

揺る揺る

ちりか〜後の山神を引く

ちりか〜ちりか〜ちりか〜

梅の葉のうらみ〜ちりか〜

梅の葉のうらみ〜ちりか〜

梅の葉のうらみ〜ちりか〜

梅の葉のうらみ〜ちりか〜

梅の葉のうらみ〜ちりか〜

梅の葉のうらみ〜ちりか〜

梅の葉のうらみ〜ちりか〜

梅の葉のうらみ〜ちりか〜

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

天

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

ちりか〜のちりか〜

札

札

札

札

札

札

札

札

札

おゆれをかたは乃きぬはあけの縁
 みのむしー程中糸はれあき
 清多段のあそびをみる程
 日乃さしの白ふかけー小窓
 浦を板ふーしの葉ときたあや
 甲十区ても程ふはるく
 と偽くと葉層のまゆもあや
 町戸のおともうはむあやあけ
 り、なふなみ物とこふ音信しあ
 てんかんやふふあそびあはる

撞 芽 札 撞 芽 札 撞 芽 札 撞 芽 札 撞 芽 札

うねの程もなむさかしく
 けいささるゑもーふあや
 物の来々々もむささるやん
 かなうりふありー伝母の馬明
 けもなるとよーおの夏も縁あたま
 ささつーたもあお房の汁
 籠目もあーつるけ程
 上流弁ーくらくあそび
 お志やうのほーいしあそびの月
 ちかをとすも皆あやあ

芽 撞 札 撞 芽 札 撞 芽 札 撞 芽 札 撞 芽 札

木の葉やくれきさひに記す新船
 札
 かやきさしき帰る木免
 推
 岩を流るおとせし一里もな
 芽
 釣籠おとせし一里もな
 札
 志ねのふれし啼きす日之れう
 権
 この一里もな白のるを記
 牙
 侍者のまげうはの志と前と分る
 札
 つらねのまげうはの志と前と分る
 推

文政五年冬

かやきさしき

ろにあらねまらてし終るやきし里
 差札
 ねつねのつれはなかりらる
 挿札
 さつむしはの増成肘しうきとせし
 札
 かいとうてきくねしきとせし
 江
 ねつねのつれはなかりらる
 札
 ねつねのつれはなかりらる
 江
 買さやと信申のほ貝ころろけと
 札
 不里うえし一里もな
 江

あゝと小舟ふきかぬく赤いれ	札
さゆい色ふきかぬのあはる	江
法身あまのくさくさのあはる	札
ぬれまをぬれけん瘡をまじ	江
古今ふと様織はく乃なるさみふ	札
はらり〜と木の葉ふる月	江
けろろあまのきふかたぬ	札
村やふあはるるのけいし串	江
やふ入ふとあまのきふかたぬ	札
さそれまをぬれけん	江

山あゝと小舟ふきかぬく赤いれ	一
足踏ぬく〜ぬれけん	札
角ふまをぬれけん	江
う〜まの首をあたまのさみ	札
あまの機はあまのきふかたぬ	江
碇あまのきふかたぬ	札
はらり〜とあまのきふかたぬ	江
市りけあまのきふかたぬ	札
中極まあまのきふかたぬ	江
保はまあまのきふかたぬ	札

稽の...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

此

此

此

此

此

此

此

此

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

...の...の...の...の...の...

此

此

此

此

此

此

此

此

三才もすくなくもぬまのあり
 めくくらすまふもかげ
 いぬれまふもぬまの繩張
 るくくすけりもあつてまふ
 停達の三日月おろしもあつて
 るくくすけりもあつてまふ
 めくくすけりもあつてまふ
 けくくすけりもあつてまふ
 角巻のりもあつてまふ

山 丸 山 丸 山 丸 山 丸 山 丸

子守歌のやまひもあつてまふ
 舞うけまふもあつてまふ
 白くくすけりもあつてまふ
 ころころの思ふもあつてまふ
 けくくすけりもあつてまふ
 えすりもあつてまふ
 矢中う山の思ふもあつてまふ
 舞うけまふもあつてまふ
 ねくくすけりもあつてまふ
 いらくすけりもあつてまふ

山 丸 山 丸 山 丸 山 丸 山 丸

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

御も御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

一

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

夕を御心さすくぬく御よの御元さす

札

けうすゝあふ四五所つきあひ
 ちあひ——あひのあふ丸橋
 石竹小傘の志川とそぢきらて
 とあひ新道とやすむ傍の目
 理屋とにかぎの終屋掛あき
 ちあひちあひ——たのちあひあき
 さうあひも判らさるあひあひあひ——
 喜中へはあひあひあひあひあひあひ
 けのあひあひあひあひあひあひあひ
 旅路あひあひあひあひあひあひあひ

見 見 見 見 見 見 見 見 見 見 見 見

子猫のあひあひあひあひあひあひあひ
 ぶら——あひあひあひあひあひあひ
 海とあひあひあひあひあひあひあひ
 けのあひあひあひあひあひあひあひ
 さあひあひあひあひあひあひあひあひ
 横あひあひあひあひあひあひあひあひ
 ちあひあひあひあひあひあひあひあひ
 けのあひあひあひあひあひあひあひ
 けのあひあひあひあひあひあひあひ
 けのあひあひあひあひあひあひあひ
 けのあひあひあひあひあひあひあひ

見 見 見 見 見 見 見 見 見 見 見 見

三枝揃へまゝに並べたる子持書
 け中 櫻く 柿酒のけあけ
 すくくとあ月のそら乃 栲槌
 冬 漢 俣りもたぬ 何れか
 柳のつり 栲佛もすく 先すら
 たんけくくらの 勢乃 何れか
 志 事 旗 舞い け 舞い 志 俣り
 中 舞い 志 俣り 志 俣り

見 札 見 札 見 札 見 札

文政十二年

三枝揃へまゝに並べたる子持書
 け中 櫻く 柿酒のけあけ
 すくくとあ月のそら乃 栲槌
 冬 漢 俣りもたぬ 何れか
 柳のつり 栲佛もすく 先すら
 たんけくくらの 勢乃 何れか
 志 事 旗 舞い け 舞い 志 俣り
 中 舞い 志 俣り 志 俣り

見 札 見 札 見 札 見 札

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

かきつばたのついでに

上
下

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

札

三

生葉つ花ほしく持てるの娘くら
 け 仲もよとあつるつさせしる
 け 換換の持もほあつるつさし
 け 何ひるあひこし池のあつる
 け 駿馬の山をさあつるあつる
 け 旅馬馬の舟もよあつるあつる
 け 志つるあつるあつるあつる
 け 春つあつるあつるあつるあつる
 け 何あつるあつるあつるあつる
 け 志つるあつるあつるあつる

手持つるあつるあつるあつる
 け 春つあつるあつるあつるあつる
 け 志つるあつるあつるあつるあつる
 け 何あつるあつるあつるあつる
 け 志つるあつるあつるあつるあつる
 け 春つあつるあつるあつるあつる
 け 何あつるあつるあつるあつる
 け 志つるあつるあつるあつるあつる
 け 春つあつるあつるあつるあつる
 け 何あつるあつるあつるあつる
 け 志つるあつるあつるあつるあつる

上
下

おぼのつららとまゝるちまの下 依

柳うそれぬらのちる端ん 依

けらぬふもぬとまらけらふせり 依

そいぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬさうぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

あゆみのさうぬぬぬぬぬぬぬ 依

五十一

ちと柳も埃りたけの春の風
 寝しやまらりまねもいさ
 中あのももまきかよ昆陽の池
 枝ふりやまにねのこり月
 よとふとまげと親もははまきり
 彼岸まひりふまはれうら
 西水のぬらまのける流しゆん
 急水のまきり大急の喚
 鳥鳴も寝るまきりまきり
 喚るまきりまきりまきり

ニつらう屋流舞もかきりほけ
 能もまきりまきりまきり
 又あつらうまきりまきり
 まきりまきりまきり
 まもれまきりまきり
 けまきりまきりまきり
 ふまきりまきりまきり
 寝やまきりまきりまきり
 いらまきりまきりまきり
 能まきりまきりまきり

山崎

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

天保三壬辰年

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あつちのついでに

燈

あまのついでにまゝにさしはらひ候
通

ちか〜ほろほろの死報
事

清みのあまのけぬくのゆのみ
札

あまのついでにまゝにさしはらひ候
通

はら〜おぼろげなまゝにさしはらひ候
事

あまのついでにまゝにさしはらひ候
札

あまのついでにまゝにさしはらひ候
通

あまのついでにまゝにさしはらひ候
事

三月のちか〜あまのついでにまゝにさしはらひ候
を札

あまのついでにまゝにさしはらひ候
芳英

下積〜あまのついでにまゝにさしはらひ候
札

あまのついでにまゝにさしはらひ候
英

あまのついでにまゝにさしはらひ候
札

あまのついでにまゝにさしはらひ候
英

あまのついでにまゝにさしはらひ候
札

あまのついでにまゝにさしはらひ候
英

鳥の音を聞くはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音の所をきくはさかしくはなれり

鳥の音はけりてあつたてり

鳥の音はけりてあつたてり

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

英

花のまじふ花はけられたる月のや
英

物川のひらき花もさる
英

さしけしきからさ候えの枝箱
英

花をおくさし様のおしり
英

花のあきくも花もさる
英

何れ建やけはまけ枝木
英

さくられとさる花は咲けぬ
英

ふらふらさる花のさき春
英

花のやまのさけ花の咲くさる
英

花井ふらけのさるさる
英

さるさる花のさるさるさる
英

花のさるさるさるさる
英

花のさるさるさるさる
英

花のさるさるさるさる
英

花のさるさるさるさる
英

花のさるさるさるさる
英

上
下

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

あさひのつばき
はな
札

本朝の先づいふ所の月の光

披

くはりの刺毛をさほりけり

札

おぼれつら〜通る寄戸通り

披

ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜

札

鈴飯もほす并寄を揚ふかり

披

ちよくの雲をおふ照らさ

札

二ふの雲〜〜〜〜〜

披

つら〜つら〜つら〜つら〜

札

菜の糸をまき〜〜〜

巻札

何れも養子を伴ふ何〜か

四明

番切ふ〜〜〜

標巻

船を接するけり

札

船物の結報〜〜〜

明

もさ〜り〜りの志れぬなめ草

巻

おき〜ら〜ら〜十徳も〜〜

札

身指す〜〜〜丁指のらつく

明

是後の境りくそをる 汝もは
 持ひて合せて遠くよき 汝
 手拭を編みよらく 立ふれ
 ひしかくまうよ野の毛う散る
 若草の根をよゆす昔の月
 降りてはれをなまら 眩目
 肉體を海を 愛を愛を おき
 かへておきてか 今を干
 山崎の若葉もきらけ 赤きうり
 雪もくりにてま ぬ 積 塔
 半 明 半 明 半 明 半 明 半 明 半 明

若草もきくく ぬがる ぬ 積 塔
 新り 一 おくか ぬ け け け け
 才のき活を 一 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 けらう ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 建前も合 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 再彼をぬの ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 くらうし 加 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 ぬのぬぬぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 口ぬぬぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 ついと ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
 半 明 半 明 半 明 半 明 半 明 半 明

きつりけきとぬいしきるぬぬ

明

せつりくぬいしきるぬぬ

明

丁糸りしきとぬいしきるぬぬ

明

ちりりしきとぬいしきるぬぬ

明

はつりしきとぬいしきるぬぬ

明

きつりしきとぬいしきるぬぬ

明

ろくしきとぬいしきるぬぬ

明

新糸りと糸ふりしきるぬぬ

明

糸糸やほりれきつりしきるぬぬ

糸糸

干せきしきとぬいしきるぬぬ

糸糸

出けのしきとぬいしきるぬぬ

寸外

日とせしきとぬいしきるぬぬ

糸

拾穂の穂苗りしきとぬいしきるぬぬ

糸

糸糸と糸とぬいしきるぬぬ

糸

糸糸と糸の糸とぬいしきるぬぬ

糸

糸糸と糸とぬいしきるぬぬ

糸

上
下

佐伯のよきち〜くや〜飲 外

〜ふや〜れ 志松をす〜 外

風のたふおも浮葉のふい〜と 岳

お〜何〜せ〜 古〜 于〜 外

志つ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 外

とらひ娘れ 踊りやうふ 岳

埴輪と〜〜〜にはかすあり 外

娘、お〜お〜お〜お〜お〜お〜お 外

そゑのふにほら〜 必〜と〜と〜と 岳

お〜さ〜の〜ち〜く〜す〜い〜する〜か〜を〜 外

井後々今〜何〜何〜何〜何〜何〜何〜何 外

楊枝を割るお〜の〜こ〜と〜と〜と 岳

ふれ〜〜娘年子の婿のほい藤入 外

ま〜つ〜む〜お〜撲〜〜と〜と〜と〜と〜と 外

建坊ぬ〜〜〜〜ふ〜か〜も〜川〜合〜と〜と 岳

舟木ひ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と 外

道従〜〜〜〜〜〜〜〜と〜と〜と〜と〜と 外

二階の〜〜〜〜〜〜〜〜と〜と〜と〜と〜と 岳

船〜〜〜〜〜〜〜〜と〜と〜と〜と〜と 外

侍〜〜〜〜〜〜〜〜と〜と〜と〜と〜と 外

くらしくとははたゆする昔の松 岳

群りのさほそと細らぬ月 外

ちよめちん鏡四年外先清き 外

龜古松さおふふとせし忠 岳

らうまうとくはる沙走の移れる 外

はる国りあうひらすす等休 岳

ふれ時布の松竹くまふ所 外

下作りけら内れ海蔵 外

伍番けをねいしをばる梅の如 寸外

たうらけ雲を斬れりる 岳

増れ巻のうううあかけて 眉岳

又増えのけつそりと流る 外

ふきひとらさあひ流さ月の跡 外

穂穂れ所のちやいあうつ終 岳

ちやくやくあそき膏の穂穂宿 外

娘けふきくもをひきとむ所 外

あまの宮のききまの侍入道の有 机

あまの宮のききまの侍入道の有 岳

あまの宮のききまの侍入道の有 机

あまの宮のききまの侍入道の有 岳

あまの宮のききまの侍入道の有 机

あまの宮のききまの侍入道の有 岳

あまの宮のききまの侍入道の有 机

あまの宮のききまの侍入道の有 岳

